

## デジタル簡易無線のデータ伝送における 周波数の有効利用に資するための調査検討会 開催趣旨

簡易無線は、無線機の操作に無線従事者の資格を必要とせず、簡単な無線局免許手続きだけで気軽に使用できる無線通信システムとして、広く利用されており、アナログ方式の簡易無線局は、現在全国で約65万局、北陸管内でも約1万4千局が開設されています。

しかしながら、従来のアナログ方式は、音声通信による利用が主であるため、データ伝送や高所利用など、ニーズの多様化等による需要の増加に対して十分に対応しているとは言えず、また需要の増加による周波数の逼迫、通信トラフィックの輻輳による障害、通信内容の漏洩なども懸念されています。

一方、デジタル方式の場合は、データ伝送に適した方式であること、雑音のないクリアな音質であること、通信内容の漏洩防止を図れること、地域などの中・近距離間通信に適していること、また、周波数の効率的な利用（アナログ方式の約1/3）が可能なこと等がメリットとして挙げられます。

400MHz帯の簡易無線は、昨年8月、デジタル方式が制度化され、音声による情報伝達に加えデータ通信への利用も可能となったことから、今後、環境データの収集や静止画伝送、遠隔監視制御などのデータ系通信分野への利用が期待されています。

特に、簡便に利用できる特徴からデジタル簡易無線は、環境センシング技術を活用する地球に優しい快適な住環境の実現をテーマとしたエコタウンや、地域コミュニティ通信の構築の一助にも成りうると考えられます。

このため、本調査検討会は、デジタル無線に関わる多様化するデータ伝送ニーズの検討、デジタル簡易無線のデータ伝送に係る性能・能力の検証や、エコタウンモデルを念頭に置いたフィールド試験、400MHz帯及び近い将来デジタル化が予想される150MHz帯のデータ伝送用周波数の効率的な割当方策等について調査検討を行うことにより、デジタル簡易無線の高度利用と普及促進に寄与するとともに、周波数の効率的な利用に資することを目的として開催するものです。